

写真にあるのが道徳のまち笠松のロゴマークです。かわいらしいハートの形に、「かさまつ」の4文字が美しく配置されています。一目見ただけで道徳のまちを表していることが分かるデザインです。これは、岐阜工業高等学校デザイン工学科3年のビジュアルデザインコースの学生さんたちが、知恵を出し合って作成したものです。

このロゴマークには3つの思いが込められています。1つ目の思いは「まるみ」です。温かさや柔らかさを表しています。2つ目の思いは「文字のつながり」です。人と人とのつながりや協力を表しています。3つ目の思いは、もちろん「ハート」です。思いやりや感謝を表しています。

この素晴らしいロゴマーク

を道徳のまち笠松では、情報紙のマークとして活用したり、活動するときの拠点に掲げたりします。

このロゴマークを見かけたら、どんな活動をしているのか、ぜひ目を向けてみてください。きっと温かい気持ちになります。思いやりの心、おもてなしの心を大切に「道徳のまち」を一緒に温めていきましょう。



岐阜工業高等学校の生徒考案のマーク



道徳のまちの活動ブース

かさまつ町の民話「昔むかし」

畑つなぎ ②

「このくらしいの雨で、田畑に水がのるなんて考えられん。」
「昔部のように土地がひくけりや別じゃが、ここは加納ほども高いところじゃ。それが三日の雨で水が屋敷まで来るなんて。」
「さつまさまの工事前ですら、水がつくことがなかったんじゃ。」
人々はどなりちらすかのようにならぬため、うろろうろした。兵蔵もこのくらしいの雨で大水になるなど思いもよらなかった。

大水の原因はつかめたが

兵蔵は水が出るたびに、代官所の役人の目をぬすんで原因を調べた。この調査は、水がはじめて出てから五十年にもわたった。あのころ三十二歳であった兵蔵も八十二歳と長老になっていた。
村々の田畑は荒れ、あしの茂みや菱の茂る池などがいやに目につくほどさびれていた。
このころになって兵蔵はつきりと「川の水が増えると水が下から上へあがってくる。すると川の水は流れないであふれるのだ。あふれた水は、加納のような堤のないわしらの方へ流れこむのだ。」と考えようになった。(つづく)

※かさまつの民話「昔むかし」は昭和54年に発行されました。中央公民館・松枝公民館・総合会館でご覧いただけます。